



前庭に集う第62回卒業生



天高育友会報
平成22年3月1日発行
発行 県立天草高等学校育友会
編集 天高育友会文化広報委員会
印刷 ワタナベデザイン

卒業



育友会会長
渡邊 英人

夢に向かって 羽ばたいて!

校庭の桜のつぼみも少しずつ膨らみはじめ、季節は生命が躍動する春へと移り変わろうとしています。

天草高校を巣立っていかれる卒業生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業誠にありがとうございます。心からお祝いを申し上げます。

卒業生の皆さんは、今、高校生活を振り返ってみると、さまざまな思い出がよみがえってくるでしょう。期待と不安を胸に抱き緊張しながら臨んだ入学式。それから、少しずつ学校生活にも慣れ、友

達もでき、勉強や部活、生徒会活動など、たゆまぬ努力で一歩ずつ着実に歩みをすすめてきました。辛かったこと、くじけそうになったこともあったでしょう。それを乗り越え3年間で心身ともにずいぶん成長し、たくましくなりましたね。

皆さん一人一人にとって天草高校の3年間は、青春時代のかけがえない貴重な思い出であり財産です。これまでお世話になった先生や保護者、同窓会や地域の皆さん、先輩、後輩、同級生への感謝の心を忘れず、自らの夢の実現に向かって力強く羽ばたいてください。皆さんの前途に、幸多からんことをお祈りします。

さて、今年度、育友会では、次の3つの目標を掲げ取り組んでまいりました。「人間力の向上」では、社会性を身につけてもらおうと、学期末テストに併せて、先生たちと一緒に校門でのあいさつ運動を

実施しました。「学力の向上」では、進路事務補助職員を配置し進路指導の充実を図りました。「育友会活動の充実」では、広報紙・育鵬のリニューアルを始め、ホームページの開設、文化祭での餅つきパーティーの開催、生徒会との意見交換会や通学時危険個所調査の実施、マラソン大会でのぜんざいの提供など、多くの新規事業に取り組みました。

その結果、子どもたちは、学習面はもとより、学校行事や部活動などに積極的に励み、すばらしい成果を残してくれたと思います。

この一年間、平野校長先生をはじめとする諸先生方並びに保護者の皆様には、育友会活動への力強いご支援ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



校長
平野 金波

時分の花

卒業おめでとうございます。皆さんには、教室棟、体育館の耐震改修工事と重なり、不慣れた学校生活をさせてしまいました。十分とは言えない環境の中でも困難を乗り越える天高生の気概とエネルギーは目を見張るものがあり、そのような皆さんに感動し、頼もしく誇りすら覚えました。

室町時代に能を大成した世阿弥の「風姿花伝」の中に、「時分の花」という言葉があります。年齢によって現れ、年齢が過ぎれば散っていく花のことです。世阿弥は上手になり始めた頃が最も危険な時期だと見ています。誰でも若い時に一回は花が咲くが、それは時分の花に過ぎない。どの世界でも、若さとか、天性だけで、周りから誉めそやされるままに、「時分の花」を「真実の花」と見誤り、咲き誇った花を枯らせてしまう。その花の種を取り、更に優

れた花を咲かせてこそ「まごの花」となる。それがいったん枯れてから新しい花を咲かせることができれば、「真の花」になると述べています。誰もが事を始めた最初は、向学心、好奇心、そして冒険心を持つて情熱を注ぎます。ところが、長い時間が経過すると、そのことに対して新鮮さをなくし、自然に情熱が失われてきます。その時大切なことが、心を新たにすること、即ち、「初心」に返ることです。世阿弥は、「花鏡」の中で、能を花に例えて、能は四季の花の如く常に生き生きと珍しいものを見るように、人に印象づけなければならぬとし、その花を表現するために極めて大切なことが「初心」であり、「しかれば当流に万能一徳の一句あり。初心忘るべからず。この句、三ヶ条の口伝あり。是非初心忘るべからず。時々初心忘るべからず、老後初心忘るべからず。このことは、いつも向上心を持ってということであり、年齢に関係なく、何歳になっても無限の向上心がある人の心の奥底にあるか否かであり、また、それを支えるには不断的努力が必要であると教えていま

す。また、曹洞宗を開いた道元禪師の教えの中に、「花、その紅にして美なりといえども、ひとり開くにあらず。春風来たりて初めて開くなり」という意味深い言葉があります。人間が人生の花を咲かせるのは、自らの努力と共に、それを支え、励ましてくれる多くの人の存在や環境を認識して、それを生かしていくことが必要だということと述べています。人は自らの努力と自戒、そして驕らず、感謝の気持ちを持つことで、人生を明るく、素直に、楽しく、苦しいときにも勇気を持って過ごすことができます。本校で身に付けた自分の特性に自信を持つこと、そして他人の長所を素直に認めること、これが大切だと思います。「自分より相手のこと」、「自分より全体のこと」を常に考え、みんなを助け合い、励まし合い、支え合いながら、他者と共生できる広い心で逞しく生きていくことを心から期待しています。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。また、本校の教育活動に深いご理解と温かいご協力、ご支援を賜り、心から感謝申し上げます。誠に有り難うございました。